

《担当者名》 小島 悟 skojima@hoku-iryo-u.ac.jp 本家寿洋 坂上哲可 浅野葉子 中村宅雄 谷口翔平

【概要】

本実習では、「運動学I」および「運動学II」で身につけた知識をもとに、体表からの視診・触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。また、種々の身体運動・動作を実際に観察、計測して、身体運動・動作の仕組みについてさらに理解を深める。実習はテーマ毎に小グループに分かれて行い、分析結果をグループ内で討議してレポートにまとめる。

【学修目標】

<一般目標>

リハビリテーションの対象となる運動・動作障害に対する評価を実践するために必要な運動・動作の観察および計測方法について学び、正常な運動・動作を分析できるようになるとともに、分析した結果を説明できるようになる。

<行動目標>

1. 体表から各関節の構成体を触診し、その構造を確認できる。
2. 各関節運動を分析し、その運動学的特徴を説明できる。
3. 関節トルクを計測し、その概念および関節トルクに影響を及ぼす要因を説明できる。
4. 立位姿勢のアライメント評価や重心動揺計測等を通して、姿勢制御の仕組みを説明できる。
5. 種々の身体動作を運動学および運動力学的に分析し、その特徴を説明できる。
6. 運動学習に関する課題を行い、運動学習の特質を説明できる。
7. 機器を用いた歩行分析を行い、正常歩行における運動学的特徴を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法、予習課題の説明	小島 悟
2~5	体表解剖	各関節を構成する組織の触診	小島 悟 坂上哲可 中村宅雄 谷口翔平
6~13	項目別実習1	粗大筋力検査、姿勢分析、運動・動作分析1、運動学習	小島 悟 坂上哲可 浅野葉子 谷口翔平
14~21	項目別実習2	関節運動、運動・動作分析2及び3、歩行分析	小島 悟 本家寿洋 中村宅雄 谷口翔平
22・23	まとめ	項目別実習1、2のまとめ	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

平常点 10%

実習レポート 40%

定期試験 50%

実習レポートについては、まとめ1と2の時に模範解答を説明する。

定期試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

【教科書】

運動学実習マニュアルを配布する。

【参考書】

実習の中で適宜紹介する。

【備考】

実習は小グループに分かれて、ローテーション形式で実施する。

グループ分けは初回の授業時にアナウンスする。

実習にはTシャツ、短パンを着用して参加する。

予習課題をやっていない者の出席は原則として認めない。

【学修の準備】

各実習項目で課せられている予習課題を行なっておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を
実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

小島悟（理学療法士）、本家寿洋（作業療法士）、坂上哲可（作業療法士）、浅野葉子（作業療法士）、中村宅雄（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士や作業療法士としての実務経験を活かし、身体運動・動作の観察や計測の仕方、ならびにその現象をいかに科学的に
捉えるかという思考能力を身に付けられる授業を行う。